

目視による建物安全性の確認

- [illegible]

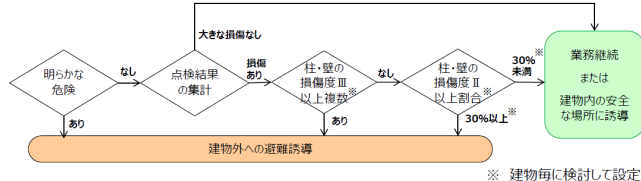
```

graph TD
    A[地震発生] --> B{明らかに危険である}
    B -- YES --> D[建物外へ退避]
    B -- NO --> C{目視による被災度判定}
    C --> E{安全性判断}
    E -- 危険 --> D
    E -- 安全 --> F[建物内に待機※]
  
```

このフローチャートは、地震発生時の建物内での対応手順を示しています。地震発生後、まず「明らかに危険である」かどうかを判断します。YESの場合は、建物外へ退避します。NOの場合は、目視による被災度判定を行います。この判定に基づき、安全性を判断します。危険と判断された場合は、建物外へ退避します。安全と判断された場合は、建物内に待機します（※）。

※滞在可否の判断のための建物機能の確認・判断は含まれません。

安全性判断の方法の例



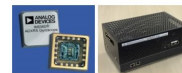
※ 建物毎に検討して設定

【第1章】建物安全性確認の概要
【第2章】導入時の検討
【第3章】運用方法
【巻末】
建物の構造的な特徴
応急点検チェックリスト など

The image shows a stack of five overlapping Japanese forms, likely for a university entrance exam. The forms contain various sections including personal information, academic history, and a table for listing subjects and scores. The text is in Japanese, and the forms are arranged in a way that shows multiple pages of the document.

① 計測に基づく安全性判定

地震最中の建物の揺れを計測器で測定。揺れが収まった直後に、建物の健全性を評価・



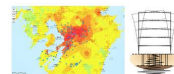
② 目視調査による安全性判定

地震後の建物の被害状況を目視で確認。予め定められたポイントをサンプル画像と見比べて判定



③ 公的情報と解析による被害推定

地震後に公的機関から配信される震度情報を利用。予め評価した建物情報とのモデルで被害状況を推定



タイプ	速報性	確証性	複数 網羅
① 計測	◎	◎	△
② 目視	△	◎	△
③ 推定	○	△	◎